

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2023-013
2.研究課題名	臭いに悩む者の専門機関の利用行動に関する実態調査
3.研究期間	令和 6 年 2 月（倫理委員会承認後）～ 令和 7 年 03 月 31 日
4.研究の概要	意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての確に記すこと。） 本研究の目的は、臭いに悩む者の専門機関の利用行動、並びに現在の支援の課題を明らかにすることである。臭いに悩む者の中には、トリメチルアミン尿症、胃食道逆流症（Greenberg et al., 2016）や腋臭症（腋臭症診療ガイドライン作成部門, 2015）といった、強い不快な臭いが生じる可能性のある身体疾患に罹患した患者の存在が推察される。彼らは心理社会的支援の潜在的な対象者であると考えられるものの、専門機関の利用行動や支援の必要性に関する検討はこれまでほとんどされてこなかった。 一方で、臭いに悩む者の中には、嗅覚関連づけ障害（olfactory reference disorder;以下、ORD）という精神疾患に罹患する者も存在する。ORD とは、不快な強い臭いが認められないにもかかわらず、不快な臭いを放っているというとらわれを有することを特徴とする精神疾患の一種である（American Psychiatrist Association, 2022）。有症率は約 2%と推測され（e.g., 富谷, 1987）、先行研究では ORD 症状が個人の精神的健康や社会生活に否定的な影響を及ぼすことが報告されてきた（e.g., Greenberg et al., 2016）。ORD 症状はメンタルヘルス専門機関の利用により改善が期待される一方で、国内の ORD 症状をもつ者の専門機関の利用実態や、どのような説明や対応を各機関で受けているのかに関しては明らかになっていない。 そこで本研究では、国内の臭いに悩む者を対象に専門機関の利用行動に関する実態、並びに現状の支援の課題を明らかにすることを目的とする。支援の課題を検討するために、単に利用行動を尋ねるだけでなく、専門機関で受けた治療や支援に関する症状の変化も尋ねることとする。本研究を実施することで、強い不快な臭いを放つ疾患に罹患している者が心理社会的支援の対象となる可能性について検討できる。加えて、深刻な状況にあると考えられている ORD 症状をもつ者の支援として、メンタルヘルス専門機関の利用に至るまでの支援、メンタルヘルス専門機関の利用継続の支援、症状に対する直接的な介入支援の中から、最も必要とされる支援の方向性を提案できることが期待される。 方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと） 対象者の適格基準は、(1) 18 歳以上であること、(2) 日本語が読めること、(3) 自分の臭いについてとても悩んでいる、あるいは過去にとても悩んだ経験があること、(4) 自分の臭いの悩みについて考えることに多くの時間を費やしており、「考える時間がもっと少なくなればいいのに」と思っていること、あるいは過去に多くの時間を費やし、「考える時間がもっと少なくなればいいのに」と思った経験があることとする。除外基準

	は、(1) 医療機関で統合失調症と診断されていることとする。性別による対象者の選別は実施しない。本研究の予定対象数は強い不快な臭いを有する群 150 名と ORD 症状を有する群 150 名の合計 300 名とする。
	問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと） 教育心理学講座 臨床心理学分野 Tel：022-795-6140

（紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。）